# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間:2019年4月から6月

2. 調査対象:小樽市内の企業278社

3. 内 訳:製造業62、卸売業28、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業49

サービス業39、建設業36

4. 回答企業数:195社(70.1%)

5. 調査方法:調査票によるアンケート

※DI (景気動向指数:ディフュージョン・インデックス)とは・・・

好転(増加)企業割合から悪化(減少)企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

2018年度に「観光・サービス業」を、「観光業」と「サービス業」に分類したため、同2業種の「主要3項目DIの推移」には、2018年度第1・四半期以降のデータを掲載しています。

#### 概 況

## 一 市内景況は、悪化している 一

前年同期(2018年4月~6月)と比べた今期(2019年4月~6月)の状況 今期と比べた来期(2019年7月~9月)の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲11.6で、前年同期と比べ13.4ポイント低下しました。原材料価格や仕入価格の上昇、働き方改革への対応が主な課題となっています。

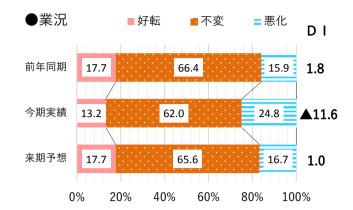
業種別DIは、製造業が同2.5ポイント低下の▲4.6となりました。原材料価格の上昇や、日米貿易摩擦の影響による、中国への機械輸出の低調が懸念されます。卸売業は同18.2ポイント低下の▲22.7となりました。製造業の製造コスト増加が、仕入単価を引き上げており、採算が悪化しました。小売業は同20.3ポイント低下の▲37.5となりました。市外への人口流出により、従業員の確保難や、売上の減少傾向が強まっています。運輸・倉庫業は同15.2ポイント上昇の▲26.3となりました。道路旅客運送における利用客の減少傾向や、燃料価格の高騰が課題です。倉庫はやや好調となりました。観光業は同9.3ポイント低下の▲6.3となりました。大型連休中の客数増加により、5月の売上が伸長しましたが、連休後の落ち込みも散見されました。サービス業は同8.3ポイント低下の19.3となりました。従業員の確保難や、一部の飲食店の客数減少が見られます。建設業は同20.2ポイント低下の▲3.6となりました。従業員不足が深刻な課題です。

来期の業況判断DIは1.0で、プラスに転じました。小売業、観光業、サービス業を中心に、消費税 増税前の駆け込み需要や、旅行、行楽シーズンの到来による業況の好転が期待されています。

### 業況、売上、採算

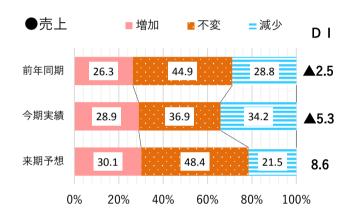
今期(2019.4~6)の業況判断DIは ▲11.6で、前年同期(2018.4~6)と比べ 13.4ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ 業況が好転すると予想しています。



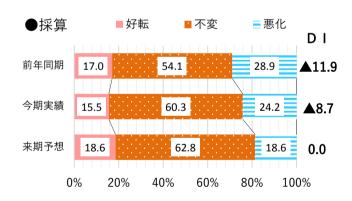
今期の売上高DIは▲5.3で、前年同期 と比べ2.8ポイント低下しました。

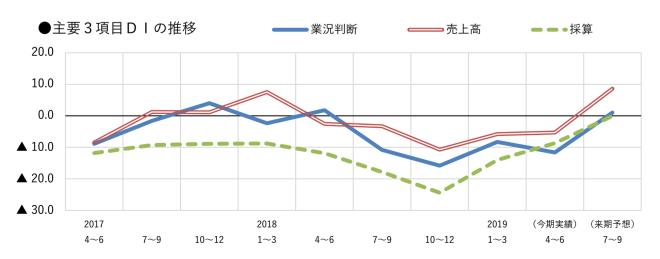
来期は、今期と比べ売上が増加する と予想しています。



今期の採算DIは▲8.7で、前年同期と 比べ3.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向 が弱まると予想しています。

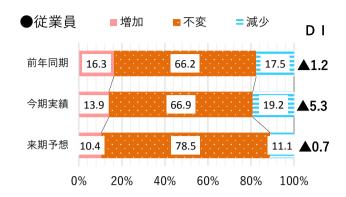




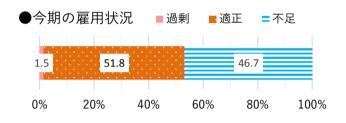
# 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.3で、前年同期 と比べ4.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業 員数が過剰であると回答した企業の割合 は1.5%、適正であると回答した企業の割 合は51.8%、不足していると回答した企 業の割合は46.7%でした。



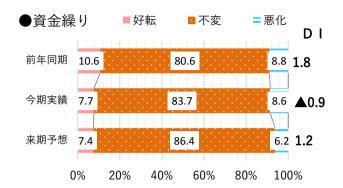
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の41.5%を占めています。次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
	過剰	0
増加した	適正	14
	不足	13
	過剰	2
不変だった	適正	81
	不足	46
	過剰	1
減少した	適正	6
	不足	32

# 資金繰り、設備投資

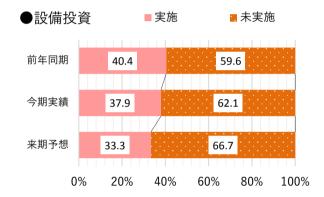
今期の資金繰りDIは▲0.9で、前年同期と比べ2.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの好転 を予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった195社の37.9%にあたる74社が実施、前年同期と比べ2.5%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、33.3%にあたる65社が設備投 資を計画していると回答しています。

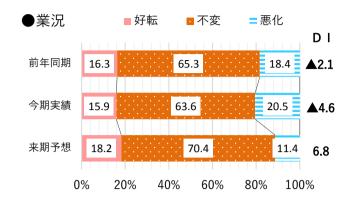


# 製造業

#### 業況、売上、採算

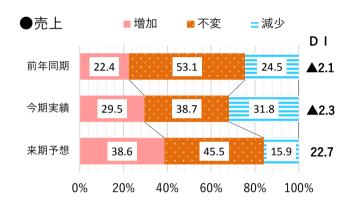
今期 (2019.4~6) の業況判断 DI は ▲4.6で、前年同期(2018.4~6)と比べ 2.5ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ業況 が好転すると予想しています。



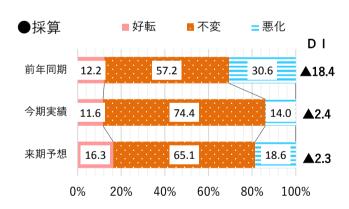
今期の売上DIは▲2.3で、前年同期と比べ0.2ポイント低下しました。

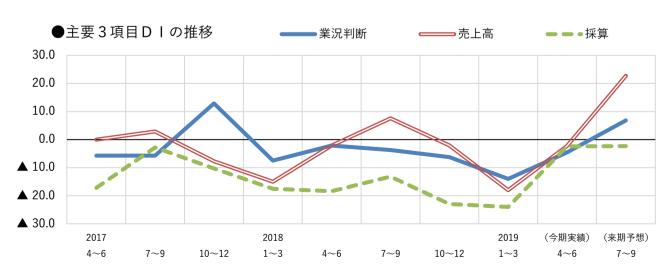
来期は、今期と比べ売上が大幅な増加 に転じると予想しています。



今期の採算DIは▲2.4で、前年同期と比べ16.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べほぼ横ばいを予想 しています。





# 売上(加工)単価、原材料仕入単価、設備操業率

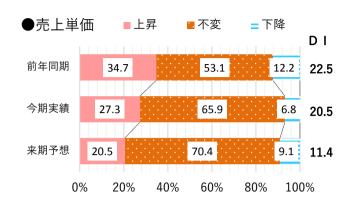
今期の売上単価DIは20.5で、前年同期 と比べ2.0ポイント低下しました。

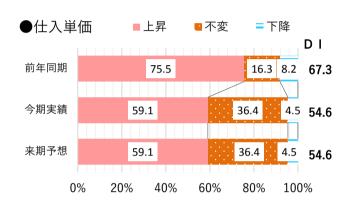
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、売上単価の上昇傾向が続く と予想しています。

今期の仕入単価DIは54.6で、前年同期 と比べ12.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ横ばいを予想しています。

今期の設備操業率DIは▲11.4で、前年 同期と比べ11.4ポイント低下しました。 来期は、今期と比べ設備操業率が大幅 な上昇に転じると予想しています。



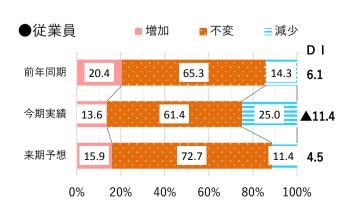




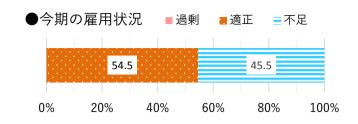
# 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.4で、前年同期 と比べ17.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数が増加に 転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は54.5%、不足していると回答した企業の割合は45.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の43.1%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で変わらず、不足している」とい う回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
	過剰	0
増加した	適正	1
	不足	5
	過剰	0
不変だった	適正	19
	不足	8
	過剰	0
減少した	適正	4
	不足	7

## 資金繰り、設備投資

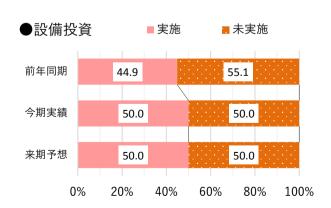
今期の資金繰りDIは▲2.3で、前年同期と比べ14.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りが好転すると予想しています。



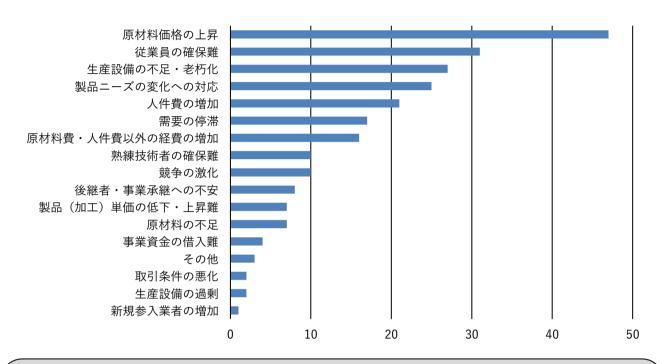
設備投資を実施した企業の割合は 50.0%で、前年同期と比べ5.1%増加しま した。投資内容は、1位が「生産設備」、 2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、今期と比べ横ばいを予想しています。



#### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「生産設備の不足・老朽化」の順です。



#### 企業の声

#### 「今期の業況について]

- ■業績は順調と言えるが、働き方改革の対応に向けて課題が多く、中小企業への適用開始が近づくにつれ、 課題解決の難しさが感じられるようになった。(金属製品)
- ■営業努力により、受注が好調である。(金属製品)
- ■原材料価格の上昇が一段落する見込みである。人件費や運賃の上昇には、他の経費を削減して対応する。 (プラスチック)
- ■中国への産業機械、機械部品の輸出が低下し、売上が減少した。(プラスチック)
- ■既存取引先が減少した。 (プラスチック)
- ■若年層の人材不足が続いており、継続して募集を行っている。(機械器具)
- ■第一四半期は、半製品の準備時期のため売上が伸びない。(機械器具)
- ■建築関係の鉄資材不足により、工事の遅れが生じており、期中の生産、納品が出来ていない。(家具建具)
- ■原材料価格が軒並み上昇しており、売価への転嫁に苦労した。運賃が別にかかるようになり、数量が少ない注文への対応に苦心した。 (家具建具)
- ■売上は横ばいだった。人材確保が課題である。(ゴム製品)
- ■原材料の値上げを受け、価格転嫁を行っているが、値上がり分を吸収しきれていない。(紙製品)
- ■10月に控えた消費税増税や、年金を巡る報道の影響を受け、消費者の消費意欲はさらに弱まるだろう。 人材確保が難しい中で、有給取得の義務化や、最低賃金の引き上げなど、厳しい状況が続く。(食料品)
- ■主力商品の原材料仕入単価が引き下げられ、新製品の売上が堅調に推移したため、業況が好転した。人材 確保に苦労している。(食料品)
- ■主力商品の売上が減少している。他の商品の売上は増加しているが、生産量が限界である。(食料品)
- ■2年前に販売した商品の引合いが順調であるが、原材料価格の上昇が課題である。(食料品)
- ■売上は増加したが、仕入価格も上昇した。豆類の仕入価格は、過去最高となった。(食料品)

- ■定期昇格を含め、人件費は今後も増える見通しである。(食料品)
- ■物流環境の悪化によるコストアップと、商品発送ロットの制約等により、受注が減少した。(飲料)
- ■後発品メーカーの市場撤退により、製品需要が増加し、操業度が上昇した。(医薬品)
- ■人材確保が難しい。石油製品の仕入が多く、仕入価格が安定しない。(その他繊維製品)

#### 「来期の業況について】

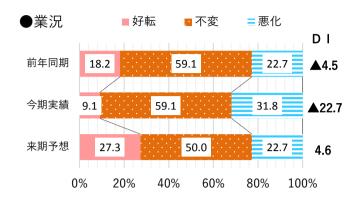
- ■引き続き、働き方改革に向けた労務環境の構築を進めるが、人材を確保できておらず、マイナス要因が改善される見通しは立っていない。(金属製品)
- ■働き方改革に向けた取り組みと、設備投資による合理化を予定している。(プラスチック)
- ■新規取引先の増加を見込んでいる。(プラスチック)
- ■大きな変化は期待できない。(機械器具)
- ■昨年9月は、胆振東部地震で発生したブラックアウトにより、生産、販売が落ち込んだが、今年は増加を 予想している。(家具建具)
- ■人口減少に伴い、工事が減少しており、不安を感じているが、対応策が分からずにいる。(家具建具)
- ■商圏の拡大、新分野の強化により、売上の増加を目指す。(ゴム製品)
- ■原材料価格の上昇分を吸収するため、製品価格の改定を予定している。販売量は増加する見通しであり、 採算の好転を期待している。(紙製品)
- ■新製品の売上が落ち着き、仕入単価の上昇が予想される。人材確保は難しいだろう。(食料品)
- ■仕入価格は、今期同様高値で推移する見込みである。売上も変わらないだろう。(食料品)
- ■新商品の開発を進めて、業績の向上を図る。(食料品)
- ■10月の消費税増税に伴う薬価改定と、来年4月の薬価改定に伴う売上減少を、生産量増加でカバーする。 (医薬品)
- ■競合他社による廉価販売、メーカーの自社工場での生産が脅威である。(その他繊維製品)

# 卸 売 業

### 業況、売上、採算

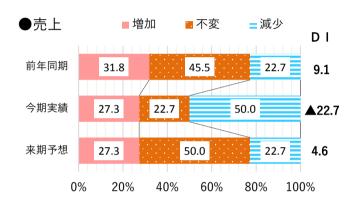
今期 (2019.4~6) の業況判断 DI は ▲22.7で、前年同期(2018.4~6)と比べ 18.2ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ業況が大幅に好転すると予想しています。



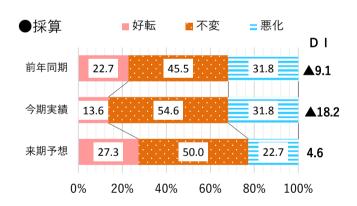
今期の売上DIは▲22.7で、前年同期と 比べ31.8ポイント低下しました。

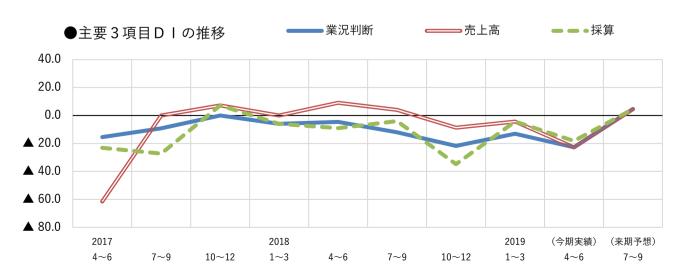
来期は、今期と比べ売上が大幅な増加 に転じると予想しています。



今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と 比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算が好転すると 予想しています。





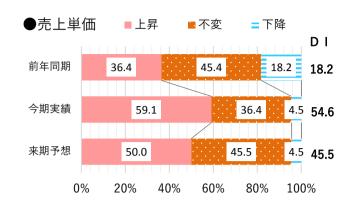
## 売上単価、商品仕入単価

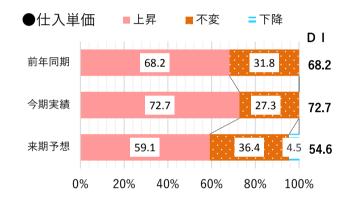
今期の売上単価DIは54.6で、前年同期 と比べ36.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、売上単価の上昇傾向が続く と予想しています。

今期の仕入単価DIは72.7で、前年同期 と比べ4.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、仕入単価の上昇傾向が続く と予想しています。

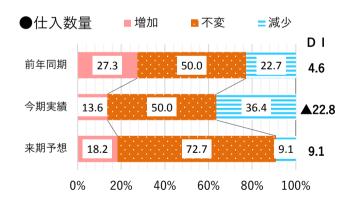




# 商品仕入数量、商品在庫数量

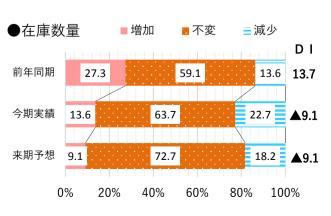
今期の仕入数量DIは▲22.8で、前年同期と比べ27.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入数量が大幅な 増加に転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲9.1で、前年同期と比べ22.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ横ばいを予想して います。



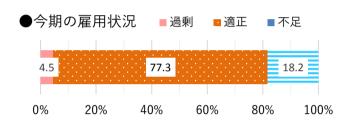
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.5で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数が減少に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.5%、適正であると回答した企業の割合は77.3%、不足していると回答した企業の割合は18.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の72.7%を占めています。

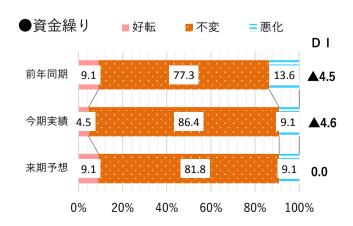
次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今	期従業員数	今期の雇用状況 回答数	
	増加した	過剰	0
		適正	1
		不足	0
		過剰	1
不変だった	適正	16	
	不足	4	
		過剰	0
減少した	適正	0	
		不足	0

# 資金繰り、設備投資

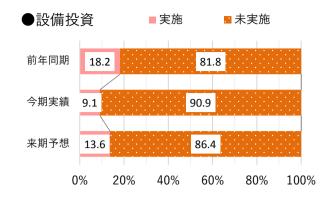
今期の資金繰りDIは▲4.6で、前年同期 と比べ0.1ポイント低下しました。

来期は0.0で、今期と比べ資金繰りの悪 化傾向が弱まると予想しています。



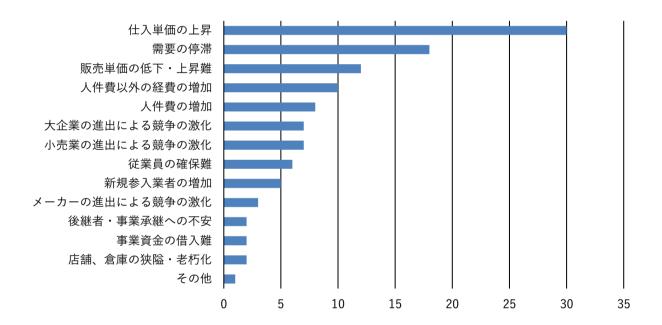
設備投資を実施した企業の割合は9.1%で、前年同期と比べ9.1%減少しました。 投資内容は1位が「車両運搬具」、「OA機器」(同位)で、他の回答はありませんでした。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は13.6%で、今期と比べ増加を予想 しています。



#### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「販売単価の低下・上昇難」の順です。



### 企業の声

#### [今期の業況について]

- ■人手不足を背景とした人件費高騰による製造コストの上昇により、メーカー各社の価格改定が相次いだ。 (食料・飲料卸売)
- ■地銀の外貨取扱い規制が厳しくなった。(食料・飲料卸売)
- ■北海道新幹線、国道 5 号高規格道路、ニセコ地区のリゾート開発等の物件に納入する生コンの原材料、砕石 関係が不足しており、それに伴い価格が上昇している。人材も不足している。(建築材料卸売)
- ■雪解けが早く、工事が順調に進んだため、販売量が増えた。(鉱物・金属材料卸売)
- ■5月の売上高が減少した。6月の売上を、昨年度実績より増やせるかが課題である。(自動車部品卸売)
- ■引合いの減少と、協力会社の人手不足が懸念される。本州向けに販売する、学校用空調設備の売上が増加した。オリンピック需要により、一部商品に不足が生じた。 (電気機械器具)
- ■大型連休があったため、売上が減少した。(事務用品卸売)

#### [来期の業況について]

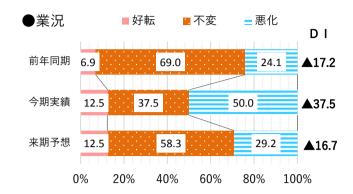
- ■消費税増税に伴い、取扱商品の一部に駆け込み需要が予想される。(食料・飲料卸売)
- ■10月の消費税増税の影響は、一時的なものに止まると予想する。(食料・飲料卸売)
- ■仕入価格の上昇が見込まれるが、販売価格への転嫁が課題となる。(鉱物・金属材料卸売)
- ■業況の悪化を見込んでいる。(電気機械器具)
- ■大型物件があるため、売上が好転するが、仕入単価が上昇し、利益は減少するだろう。(事務用品卸売)

# 小 売 業

### 業況、売上、採算

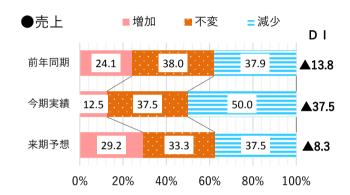
今期 (2019.4~6) の業況判断 DI は ▲37.5で、前年同期(2018.4~6)と比べ 20.3ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ業況 の悪化傾向が弱まると予想しています。



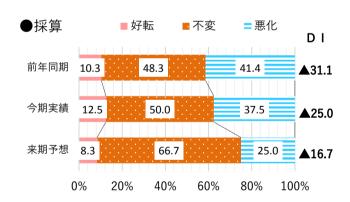
今期の売上高DIは▲37.5で、前年同期 と比べ23.7ポイント低下しました。

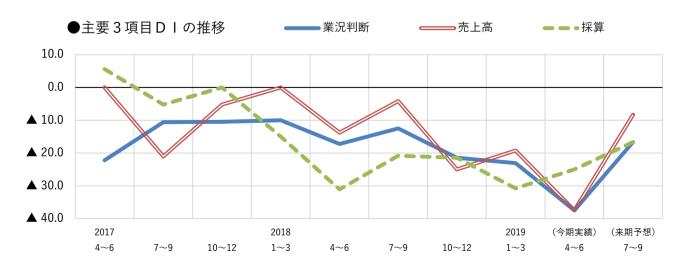
来期は、今期と比べ売上の減少傾向が 大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と 比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、採算の悪化傾向が続くと予 想しています。

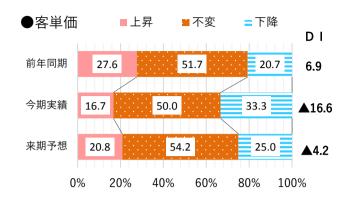




## 客単価、客数

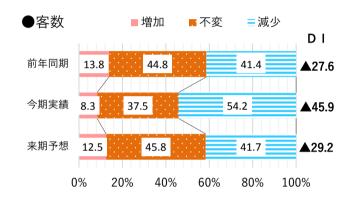
今期の客単価DIは▲16.6で、前年同期 と比べ23.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向 が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲45.9で、前年同期と 比べ18.3ポイント低下しました。

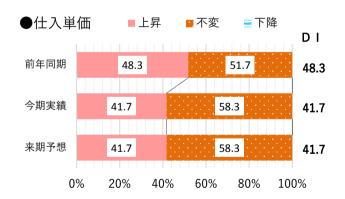
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、客数の減少傾向が続くと予 想しています。



## 商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

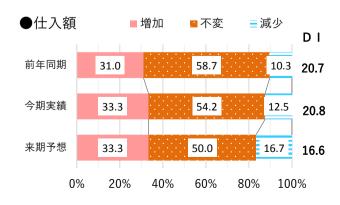
今期の仕入単価DIは41.7で、前年同期 と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ横ばいを予想しています。



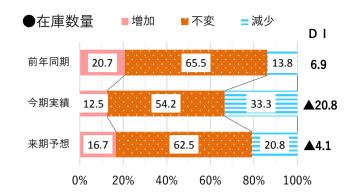
今期の仕入額DIは20.8で、前年同期と 比べ0.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入額の増加傾向 が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲20.8で、前年同期と比べ27.7ポイント低下しました。

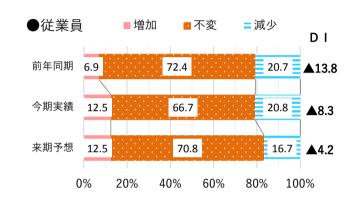
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まる と予想しています。



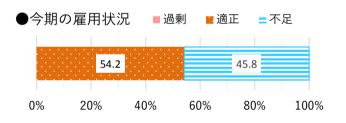
#### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.3で、前年同期 と比べ5.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、従業員数の減少傾向が続く と予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業 員数が過剰であると回答した企業はなく、 適正であると回答した企業の割合は 54.2%、不足していると回答した企業の 割合は45.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の45.8%を占めています。

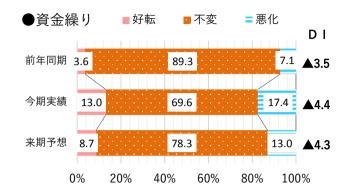
次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で変わらず、不足している」とい う回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
	過剰	0
増加した	適正	1
	不足	2
	過剰	0
不変だった	適正	11
	不足	5
	過剰	0
減少した	適正	1
	不足	4

## 資金繰り、設備投資

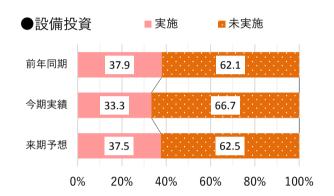
今期の資金繰りDIは▲4.4で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べほぼ横ばいを予想 しています。



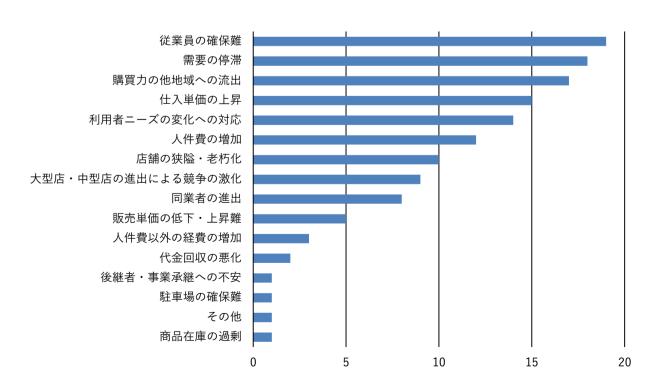
設備投資を実施した企業の割合は 33.3%で、前年同期と比べ4.6%減少しま した。投資内容は1位が「OA機器」、2 位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は37.5%で、今期と比べ増加を予想 しています。



#### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、 3位が「購買力の他地域への流出」の順です。



#### 企業の声

#### 「今期の業況について]

- ■4月の売上は好調だった。10連休を控え、買い物需要が高まったためであると推察される。一方、5月の売上は減少した。キャッシュレス決済、ネットショップでの販売が伸長した。(食料品小売)
- ■昨年秋にスーパーが開業したことで、売上、客数が減少し、人材確保が一層難しくなった。(コンビニ)
- ■年号が変わったため、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- ■仕入額の増加傾向が強まっている。(衣服・身の回り品小売)
- ■業況は悪化傾向にある。(衣服・身の回り品小売)
- ■商品力が安定しており、顧客管理も徹底しているため、売上は維持できている。高齢者の免許証返納の動きが影響しているのか、客数は減少傾向にある。給与のベースアップなどを通じた待遇改善が功を奏し、人材は確保できている。(自動車小売)
- ■値引きを抑えて、商品単価をアップした。札幌などへの個人客流出により、顧客が減少した。従業員は減少したが、人件費が増加した。(自動車小売)
- ■消費税増税を控え、需要が高まっている。(自動車小売)
- ■商品のフルモデルチェンジを行った。(自動車小売)
- ■昨年同期と比べ、悪化した。(自動車小売)
- ■求人を出しても応募が少ない。人材確保が困難になっている。(ドラッグストア)
- ■客数の減少を伴う売上の減少は、ここ数年続くと思われる。小売業の事業所数が減少しているためか、客 単価は上昇し続けている。(大型店)
- ■生鮮品に力を入れ、客数の増加を図った。品揃えを強化し、上階への誘導を図った。(大型店)
- ■売上の低迷と採用難が課題である。退職者の補充が追い付かず、苦労している。(大型店)

#### [来期の業況について]

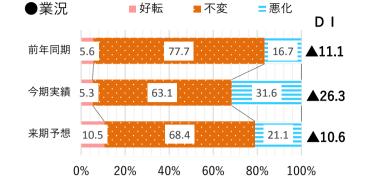
- ■観光、宿泊施設、飲食店向けの売上が伸長する見込みである。個人のキャッシュレス決済は一層増えると 見込まれるので、準備は急務である。(食料品小売)
- ■改元に伴い、4~6月期の売上が増加していた分、減少する見込みである。(衣服・身の回り品小売)
- ■消費税増税前後の月は、売上の極端な増減が懸念される。(衣服・身の回り品小売)
- ■改善の見込みがなく、不安が拡大する見通しである。(衣服・身の回り品小売)
- ■商品の値上げが一段落するため、安定を望む。(衣服・身の回り品小売)
- ■消費税増税前の駆け込み需要が見込める。社内では育休の取得が増加傾向にあり、働き方改革への対応を 一層進めたい。(自動車小売)
- ■高齢化に伴う、車保有人口の減少が進むと予想される。(自動車小売)
- ■消費税増税前に仕入を行いたい。(自動車小売)
- ■人材確保が最大の課題である。(自動車小売)
- ■消費増税や、年金問題が、消費マインドの悪化や買い控えにつながるのではないか。(ドラッグストア)
- ■増税前は、売り場の活性化を計画しており、業況の好転を期待している。(大型店)
- ■客数が回復傾向にあるので、前年と同程度の売上を確保できる見込み。(大型店)

# 運輸・倉庫業

### 業況、売上、採算

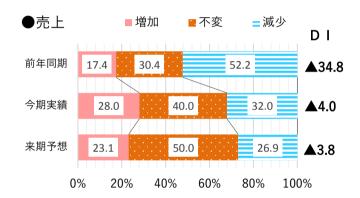
今期(2019.4~6)の業況判断DIは ▲26.3で、前年同期(2018.4~6)と比 べ15.2ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ 業況の悪化傾向が弱まると予想してい ます。



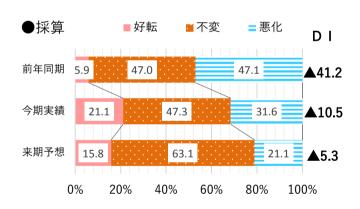
今期の売上高DIは▲4.0で、前年同期 と比べ30.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上はほぼ横ばい を予想しています。



今期の採算DIは▲10.5で、前年同期と 比べ30.7ポイント上昇しました。

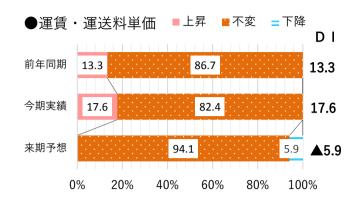
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、採算の悪化傾向が続くと予 想しています。





### 運賃・運送料単価、保管料単価

今期の運賃・運送料単価DIは17.6で、 前年同期と比べ4.3ポイント上昇しました。 来期は、今期と比べ運賃・運送料単価 が下降に転じると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、今期と比べ保管料単価の上昇 傾向が強まると予想しています。



## 入庫量、出庫量、保管残高

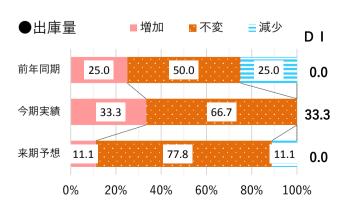
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と 比べ37.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ入庫量の増加傾向 が強まると予想しています。



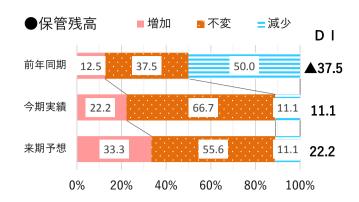
今期の出庫量DIは33.3で、前年同期 と比べ33.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ出庫量の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは11.1で、前年同期 と比べ48.6ポイント上昇しました。

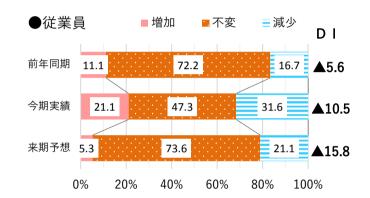
来期は、今期と比べ保管残高の増加傾向が強まると予想しています。



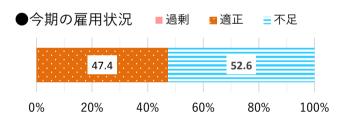
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.5で、前年同期 と比べ4.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの従業員の減少傾向は続くと予 想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は47.4%、不足していると回答した企業の割合は52.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」(同位)という回答で、運輸・倉庫業全体の31.5%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で増加し、充足している」、「従 業員数は前年同期比で変わらず、不足し ている」(同位)という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況 回答数	
	過剰	0
増加した	適正	3
	不足	1
	過剰	0
不変だった	適正	6
	不足	3
	過剰	0
減少した	適正	0
	不足	6

## 資金繰り、設備投資

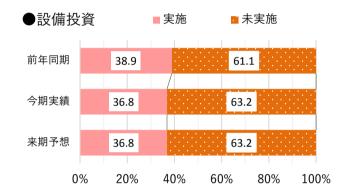
今期の資金繰りDIは▲10.5で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ悪化の動きはなく なると予想しています。



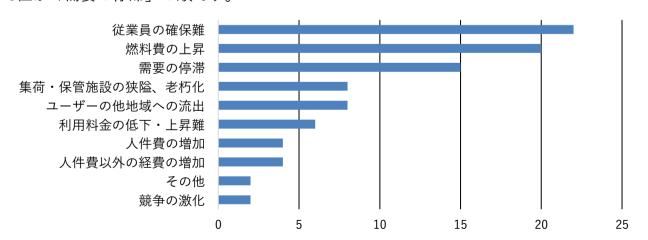
設備投資を実施した企業の割合は 36.8%で、前年同期と比べ2.1%減少しま した。投資内容は、1位が「輸送機材」、 2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は36.8%で、今期と比べ横ばいを予 想しています。



### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、 3位が「需要の停滞」の順です。



#### 企業の声

#### [今期の業況について]

- ■昨年、一昨年の売上が好調だったため、反動で受注が減少している。夏に向かい、受注の伸長を予想している。従業員が不足している。(道路貨物運送)
- ■貨物に占める国産小麦の割合が増加し、倉庫収益が増加した。事務職員の確保が難しい。(道路貨物運送)
- ■輸送量は増加傾向にあるが、燃料価格の上昇により、増収分が相殺された。(道路貨物運送)
- ■不況の影響か、物流の停滞傾向を感じる。(道路貨物運送)
- ■燃料価格が上昇し、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- ■燃料価格は安定しているが、人口減少による売上減少と、ドライバー不足が課題である。(道路旅客運送)
- ■従業員不足により、売上が減少した。(道路旅客運送)
- ■人員が不足している。(道路旅客運送)
- ■天候不順により入庫量が減少し、売上が大きく落ち込んだ。(倉庫)
- ■燃料価格の上昇に合わせて燃料油価格変動調整金の収受増加となり、貨物車の単価が上昇した。(水運) ※燃料油価格変動調整金:燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。
- ■ゴールデンウイークが10連休になったことで、旅客、乗用車の乗船が大幅に増加した。(水運)

#### [来期の業況について]

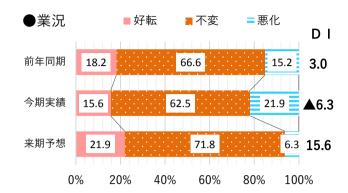
- ■貨物の減少により、入庫量、輸送量が減少する見込みである。(道路貨物運送)
- ■高齢者が多いため、ドライバー確保が難しくなるだろう。(道路旅客運送)
- ■入庫量の増加が見込まれるため、売上も増加を予想している。(倉庫)
- ■旅客需要期と農産物収穫期が到来するため、旅客収益、貨物収益の増加が見込まれる。(水運)

# 観光業

### 業況、売上、採算

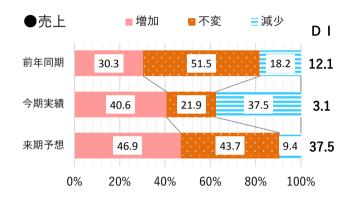
今期(2019.4~6)の業況判断DIは ▲6.3で、前年同期(2018.4~6)と比べ 9.3ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ 業況が好転すると予想しています。



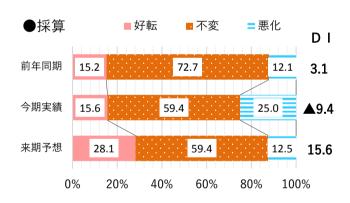
今期の売上高DIは3.1で、前年同期と 比べ9.0ポイント低下しました。

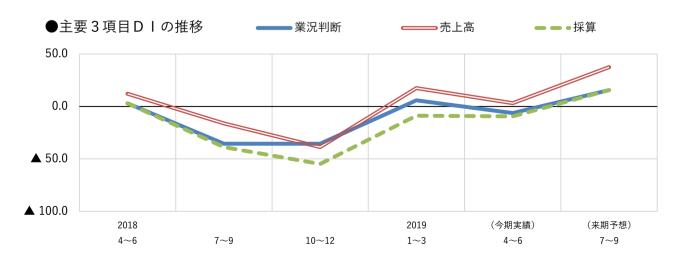
来期は、今期と比べ売上が大きく増加すると予想しています。



今期の採算DIは▲9.4で、前年同期と 比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。





= 下降

15.2

12.5

100%

DΙ

6.0

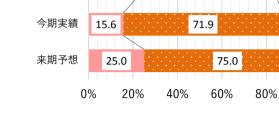
3.1

25.0

## 客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

今期の客単価DIは3.1で、前年同期と 比べ2.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価の上昇傾向が大幅に強まると予想しています。



21.2

■上昇

■不変

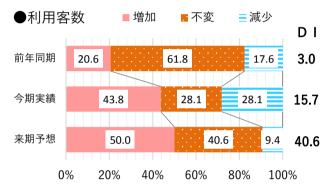
63.6

●客単価

前年同期

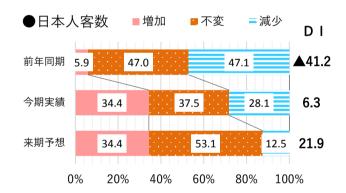
今期の利用客数DIは15.7で、前年同期 と比べ12.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ利用客数の増加傾 向が大幅に強まると予想しています。



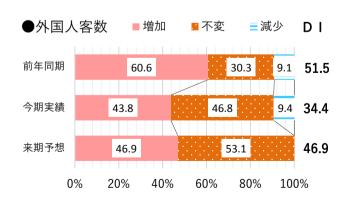
今期の日本人客数DIは6.3で、前年同期 と比べ47.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、日本人客数の増加傾向が続 くと予想しています。



今期の外国人客数DIは34.4で、前年同期と比べ17.1ポイント低下しました。

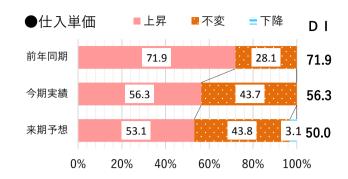
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、外国人客数の増加傾向が続 くと予想しています。



### 仕入単価

今期の仕入単価DIは56.3で、前年同期 と比べ15.6ポイント低下しました。

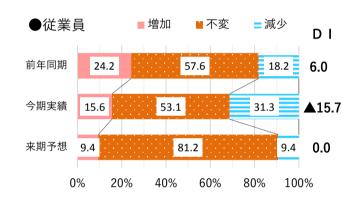
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、仕入単価の上昇傾向が続く と予想しています。



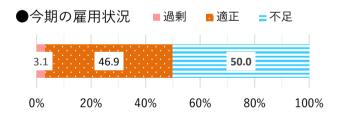
#### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲15.7で、前年同期と比べ21.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は46.9%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の31.2%を占めています。

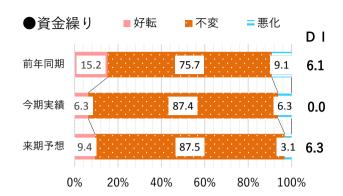
次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で減少し、不足している」という 回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
	過剰	0
増加した	適正	4
	不足	1
	過剰	1
不変だった	適正	10
	不足	6
	過剰	0
減少した	適正	1
	不足	9

# 資金繰り、設備投資

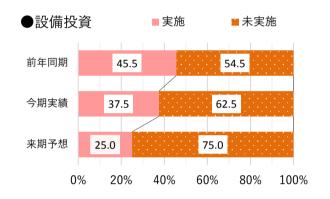
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期 と比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの好転傾向が強まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は 37.5%で、前年同期と比べて8.0%減少し ました。投資内容は、1位が「OA機器」、 2位が「サービス設備」、「付帯施設」 (同位)の順です。

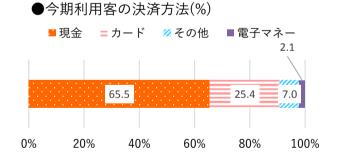
来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、今期と比べ減少すると予想しています。



#### 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で65.5%、2位がカードで25.4%、3位がその他で7.0%、4位が電子マネーで2.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済 方法は、銀行振込、小切手、旅行代理店 による支払、クーポン券、金券、ポイン トカード、掛売りです。

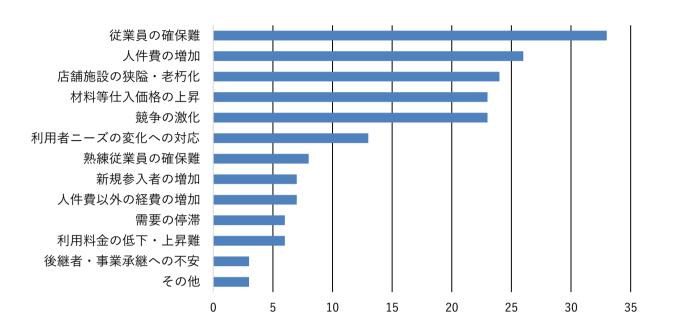


#### 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は55.0%でした。

#### 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



#### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■北海道ふっこう割が終了し、高単価の商品が低迷した。仕入単価が上昇し、業況が悪化した。(ホテル)
- ■競合他社の参入があった。10連休後は、旅行を控える傾向が見られた。(ホテル)
- ■設備の老朽化による不備等があり、販売出来ない部屋が発生した。(ホテル)
- ■一部施設の改修と、新規商品、新規サービスの提供を開始した。(ホテル)
- ■近隣に宿泊施設が開業したため、客数の確保が難しい。(ホテル)
- ■連休中は好調だったが、6月の平日は落ち込んだ。(コテージ・ペンション)
- ■ゴールデンウィークが10連休だったため、前半は好調だったが、連休終了後は客足が遠のいた。中盤から回復したが、思った程伸長せず、6月の売上も悪化した。(飲食店)
- ■人材不足による回転率の低下と、それに伴うメニュー削減による売上の低下が目立った。(飲食店)
- ■人材確保に苦労している。(飲食店)
- ■4月から移動販売車で市内巡回販売を開始したが、認知度が低く苦戦している。10連休は、対前年度 比126%の売上で好調だったが、連休後は反動があり、売上が下がった。(土産品)
- ■昨秋の地震と、後志自動車道の開通以降、来店客数の減少と業況の悪化が続いている。外国人を中心に、 売上単価は上昇しているが、日本人を含めた総客数は減少した。(土産品)
- ■5月の連休で、売上が大きく増加したが、免税利用を含む外国人の売上が大きく落ち込んだ。(土産品)
- ■ゴールデンウイーク中の売上が伸長し、業況が大きく好転した。(土産品)
- ■原材料価格が値上がりしたため、資金繰りに苦労した。(土産品)
- ■ゴールデンウイークの10連休で、売上が増加した。(土産品)
- ■原材料価格は微増し、人材は不足している。(土産品)
- ■超大型連休により、観光需要が急増した。(土産品)
- ■連休の長期化により、レジャーでの利用が前年の10%増加となった。インバウンドの利用も増加している。(レンタカー)
- ■5月は連休中の売上が好調だったが、4月と6月は不調だった。(レンタカー)

- ■観光船、駐車場ともに連休中の好天により、利用者が増加した。観光船の料金値上げにより、売上が増加した。(船舶貸渡業)
- ■前年同期と比べ、4~6月全ての月で利用客数が増加した。連休中は、対前年比約1.9倍の利用客数となった。(水運業)

#### [来期の業況について]

- ■新しいプランを作り、客室稼働率のアップを図る。(ホテル)
- ■商品の見直しを行い、業況の回復を目指す。(ホテル)
- ■繁忙期となる、夏休み期間の人材確保が課題である。(コテージ・ペンション)
- ■仕入単価と人件費の抑制が課題である。消費税増税の影響も懸念される。(飲食店)
- ■従業員を確保することで、回転率を上げ、メニューの変更と利益の増加を図る。(飲食店)
- ■引き続き厳しい状況が続くと予想する。観光ゾーンをはじめ、市内のキャッシュレス化を大胆かつ急速に 進める必要性を感じている。行政は、消費税増税を契機に、補助金や政策を効果的に使って、キャッシュ レス決済機能の充実を図るべきだろう。(土産品)
- ■天気によって、売上が変動するだろう。大きなマイナス要因は見当たらない。(土産品)
- ■大きなイベント等が無いため、例年通りの業況となるだろう。(土産品)
- ■夏休みによる、観光入込客数の増加が期待される。(土産品)
- ■原材料価格は微増する見通しである。(土産品)
- ■潮まつり、お盆時期の客数増加に期待している。(土産品)
- ■昨年9月は震災のため、全社的に売上が落ち込んだが、今年は、2年前と同程度の業績は確保できる見込みである。レジャーを通じた、売上増加を期待している。(レンタカー)
- ■やや悪化する見込みである。(レンタカー)
- ■観光船は料金値上げのため、売上の増加が見込まれるが、天候に左右されるため、不透明な部分がある。 (船舶貸渡業)
- ■例年7月~9月は、最も利用客が多い月であり、今期より利用客の増加が見込まれる。(水運業)

# サービス業

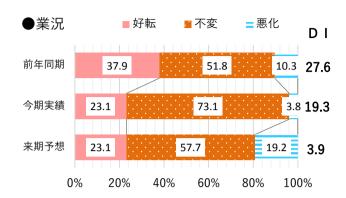
### 業況、売上、採算

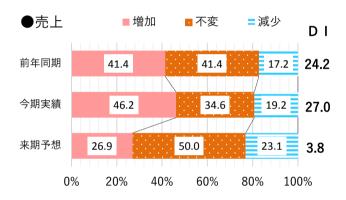
今期(2019.4~6)の業況判断DIは 19.3で、前年同期(2018.4~6)と比べ 8.3ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ 業況の好転傾向が弱まると予想してい ます。

今期の売上高DIは27.0で、前年同期と 比べ2.8ポイント上昇しました。

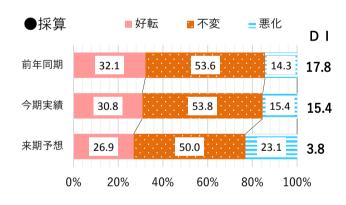
来期は、今期と比べ売上の増加傾向が 大きく弱まると予想しています。

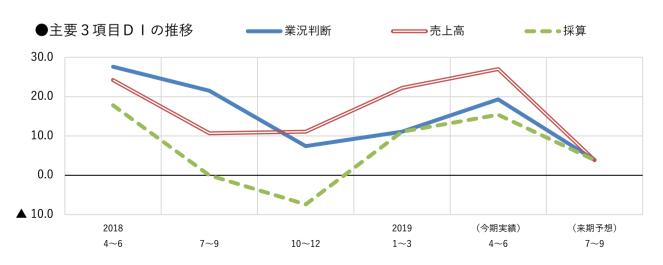




今期の採算DIは15.4で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の好転傾向が 弱まると予想しています。





## 客単価、利用客数、仕入単価

今期の客単価DIは24.0で、前年同期と 比べ5.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。

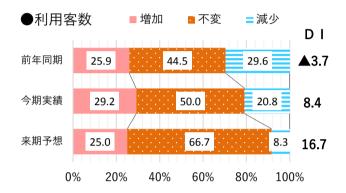
今期の利用客数DIは8.4で、前年同期 と比べ12.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、利用客数の増加傾向が続く と予想しています。

今期の仕入単価DIは58.3で、前年同期 と比べ10.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、仕入単価の上昇傾向が続く と予想しています。



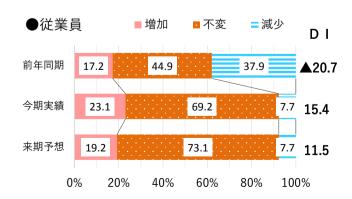




#### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは15.4で、前年同期 と比べ36.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが 出るものの、従業員数の増加傾向が続く と予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業 員数が過剰であると回答した企業はなく、 適正であると回答した企業の割合は 46.2%、不足していると回答した企業の 割合は53.8%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」(同位)という回答で、サービス業全体の34.6%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で増加し、充足している」、「従 業員数は前年同期比で増加し、不足して いる」という回答でした。

●今期 <i>6</i>	の雇用状況	兄 ■過	過剰 ■ 適	正 =不	足
	46.2			53.8	
0%	20%	40%	60%	80%	100%

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

# 資金繰り、設備投資

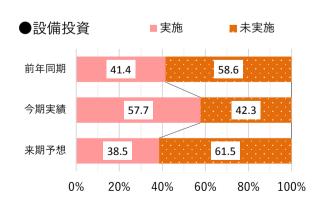
今期の資金繰りDIは12.0で、前年同期 と比べ12.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな 変化はないと予想しています。



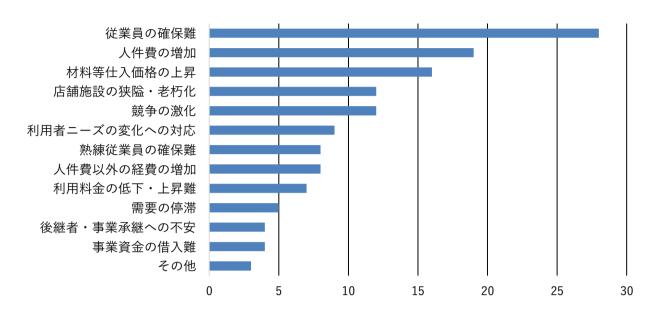
設備投資を実施した企業の割合は57.7%で、前年同期と比べ16.3%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「付帯施設」、「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は38.5%で、今期と比べ減少すると予想しています。



#### 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



#### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■昨年はメディアで取り上げられ、忙しかった。今年は売上が減少したが、連休後の落ち込みは小さかった。 観光客の下支えと、飲食店等、観光関連業種の開業がプラスに作用した。(飲食店)
- ■仕入価格の上昇により、経常利益が若干悪化した。(飲食店)
- ■人材確保難と、最低賃金の上昇が、大きな負担になっている。(ビルメンテナンス)
- ■保険業界の税の取り扱い変更により、法人契約が前倒しとなったため、今期に契約が集中した。(保険業)
- ■より良い商品を仕入れると単価が上がってしまうので、仕入価格は上がってしまう。次回来店に繋げるためのアプローチ、提案を通じて、利用客数の安定を図っている。従業員は不足している。(美容業)
- ■先行受注が好調だった。また、連休があったため、海外旅行等が好調だった。(旅行代理店)
- ■新入社員採用時に最低賃金が上昇した。従業員のスキルアップが課題である。(廃棄物処理業)
- ■利用客が増えている。働き方改革にも取り組んでいる。(保健衛生業)
- ■支店間の業績差はあったが、全社平均では昨年同期比で不変であった。(教養・技能教授業)
- ■天候に恵まれ、売上が増加した。採用は、季節雇用者や高齢者が多いため、安定せず、長続きしていない。 (スポーツ施設)
- ■主な売上が学校行事等の撮影のため、今期は安定していた。人材確保に苦労している。(写真業)

#### [来期の業況について]

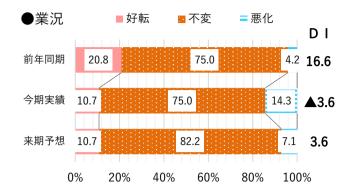
- ■夏の観光シーズンが到来し、本州や海外からの来客が増え、売上は増加する見込みである。旅行会社からの団体客が増加傾向にあるため、この傾向が続くと思われる。(飲食店)
- ■残土処分場閉場に伴う売上減少が予想される。(廃棄物処理業)
- ■先行受注が好調に推移しているため、好調を見込んでいる。(旅行代理店)
- ■従業員が働きやすい環境を作れるよう、取り組んでいきたい。(保健衛生業)
- ■増税前の駆け込み需要を見込んで、営業戦略を立てる。(教養・技能教授業)
- ■夏のイベントがあると予約が増えるので、必然的に売上、客数もアップする見込みである。(美容業)
- ■売上が落ち着くため、新たな顧客を開拓したい。(教養・技能教授業)

# 建設業

## 業況、売上、採算

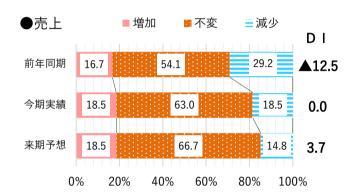
今期(2019.4~6)の業況判断DIは ▲3.6で、前年同期(2018.4~6)と比べ 20.2ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ 業況が好転すると予想しています。



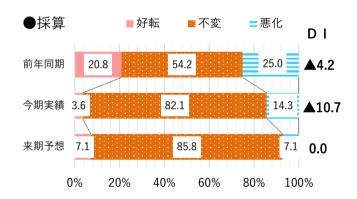
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と 比べ12.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上が増加に転 じると予想しています。



今期の採算DIは▲10.7で、前年同期 と比べ6.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

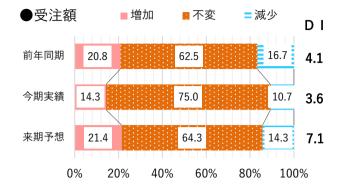




## 受注(新規契約工事)額、契約残(未消化工事高)、材料仕入単価

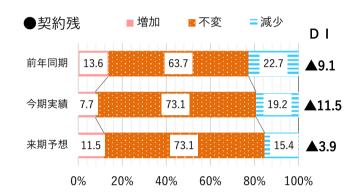
今期の受注額DIは3.6で、前年同期と 比べ0.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ受注額の増加傾向が強まると予想しています。



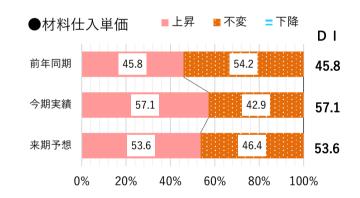
今期の契約残DIは▲11.5で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残の減少傾 向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは57.1で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

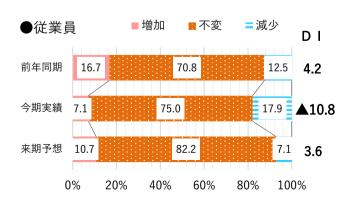
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



# 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.8で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

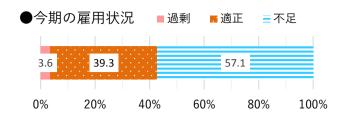
来期は、今期と比べ従業員数の増加 を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.6%、適正であると回答した企業の割合は39.3%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の39.2%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年 同期比で変わらず、充足している」とい う回答でした。

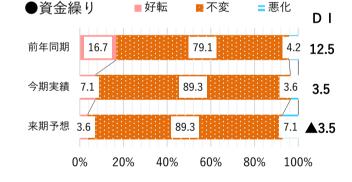


<del></del>		1
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
	過剰	0
増加した	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	11
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	4

## 資金繰り、設備投資

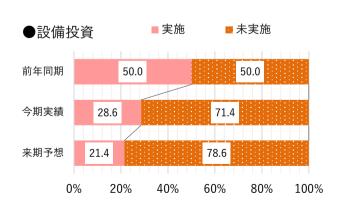
今期の資金繰りDIは3.5で、前年同期 と比べ9.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化 を予想しています。



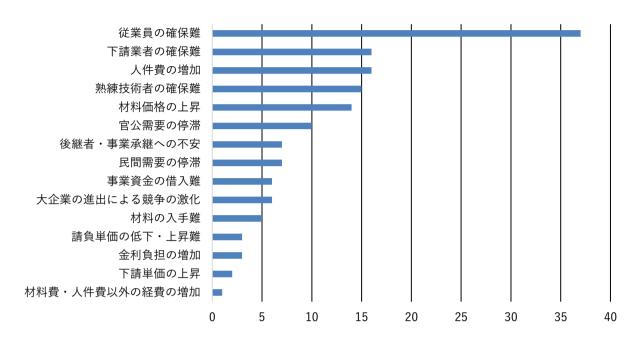
設備投資を実施した企業の割合は28.6%で、前年同期と比べ21.4%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建設機械」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は21.4%で、今期と比べ減少を予想 しています。



#### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「下請業者の確保難」、「人件費の増加」(同位)、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



#### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■前期同様の立ち上がりとなった。仕入単価は多少上昇しているが、請負金額への転嫁が可能な状況である ため、採算は確保できている。人材は相変わらず不足している。(一般管工事業)
- ■秋までの受注は確保できている。原材料価格の高騰と、人材不足が課題である。(一般管工事業)
- ■昨年同期と比較し、受注が減少した。(職別工事業)
- ■売上額、仕入単価ともに微増した。(職別工事業)
- ■業況がやや好転した。 (職別工事業)
- ■従業員不足、工事単価の低下、設備投資の停滞が課題である。(電気工事業)

#### 「来期の業況について]

- ■仕入単価の上昇は続くが、請負金額への転嫁を行うことで、採算は確保できるだろう。(一般管工事業)
- ■仕入単価は微増するが、受注の増加も見込めるため、業況は維持できると思う。(職別工事業)
- ■今期よりも好転する見込みである。 (職別工事業)

# 市内企業倒產状況

2019年4月~6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

# 倒産件数は2件、前年同期比減少 負債総額は2億900万円、前年同期比減少

倒産件数

負債総額

2件

2億900万円

前年同期比

件数 -3件 (前年同期 5件) 負債 -1億8,500万円 (前年同期 3億9,400万円)

■4月

食肉加工卸(負債1億9,000万円:業績不振による内整理)の1件が発生した。

■5月 なし

■6月

中古車販売(負債1,900万円:業績不振による破産)の1件が発生した。

市内建築確認申請受付件数·新設着工住宅戸数状況 2019年4月~6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は124件、前年同期比減少新設着工住宅戸数は35棟55戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数

新設着工住宅戸数

124件

35棟55戸

前年同期比 件数 -9件

戸数 -29棟130戸

(前年同期 133件)

(前年同期 64棟185戸)

※変更確認又は変更通知を除く。